発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人　渋田紀生
年間600円　送料共

71年闘争の体制固まる

誇り得る闘いめざす

前組合長の意志受継ぎ

一日、笹林公園内の労働会館で開催された三池労組の〝第二回中央委員会〟は、こんどの定期改選によって選出された古賀春吉新組合長以下の執行委員、中央委員や代議員を確認、七一年度の闘いをめざす前進体制を確立した。

宮川前組合長退任と重って注目された中央委員会は、心からの感謝をこめながら「宮川前組合長の意志を受継ぎ、反合理化の旗の下に、さらに誇り得る闘いを発展させるために団結する」(古賀春吉新組合長のあいさつから)ことを固く誓った。

「今後も三池と共に歩く」
宮川前組合長

宮川前組合長は中央委員会の席上、「ぜひ全組合員・家族の皆さんに伝えてほしい」と、退任に至った心境を語った。

「きたる十一月三日、停年年令を迎える。三池闘争の責任を追及され、現在係争中であるので組合員ではあるが、しかし、組合員と行動を共にする気持に従った。これが第一の理由。第二に、昭和二十八年以来の組合長だったことを長過ぎるように思った。マンネリ化を打ち破るにも、この際新しい空気を導き入れるべきだと決意した。血の闘いの中での三池主婦会の結成、安保と三池の闘い、長期抵抗路線の創造、一一・九大爆発、CO・遺族闘争から命を守る闘いへの発展、三池の火は全国に広がっているが、私はこの三池の闘いと共にこれからも歩き続ける決意である。

今後にのぞむことは①長期抵抗統一路線の定着　②CO闘争をより階級的にとらえて闘うこと　③学習活動の強化　④三池の宝である主婦会活動の強化――など。新しい体制に期待する」

新執行部体制

改選の結果決定した組合長ほか組合の全執行委員は次の通りである。

本部関係
組合長　古賀春吉
書記長　渋田紀生
書記次長(労働担当)　蒲池哲夫
〃(組織担当)　山下開
〃(編社・財務長兼任)　谷端一信
守る会担当部長　井手正光
生活対策部長　宮本文男
会計監査　古川正則
〃　石丸国男

指導部関係
宮浦指導部長　中屋親盛
四山〃　百田悟
三川〃(総務・労働担当)　沖正信
〃(組織担当)　沖克太郎
本所〃　東実義
港務〃　大橋武彦

なお新中央委員会は総員九十七人で、議長=大野博泰(三川)、副議長=松永元治(宮浦)・竹金蔵(四山=以上敬称略)を選出。

御苦労さんでした

新労組員が組合長に

こんど宮川組合長は、長く身をおいてがんばってきた組合長を辞任しましたがすでに新聞やテレビなどの報道にも見られるように、組織の内外からひどく惜しまれています。去る三十日には、三池新労組の組合員からまでも「ご苦労さんでした」と、ねぎらいのハガキが寄せられてきました。さっそくご紹介します。

新労組員の手紙

第二組合員です。

宮川組合長、永い間本当にご苦労さんでした。

勇退されても、三池の闘いの火は消えることはないでしょう。

いつまでも若く、お元気で……。

三池労組の発展を祈ります。

去月6日、ハンスト解除の日、心こめて交渉経過を報告する宮川前組合長。

お願い

組合員・家族の皆さん、ぜひ本紙にいろんな原稿と共に、大切な編集に対する率直な批判、希望などぜひ寄せて下さい。みんなで〝みいけ〟をつくりましょう。

編集部

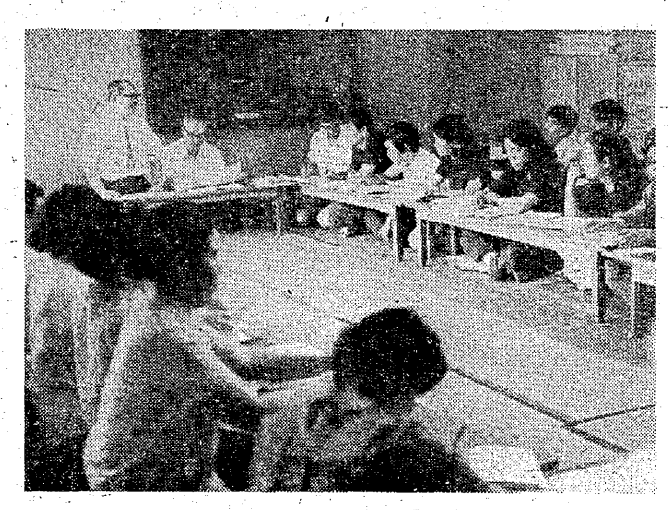
炭労期末闘争を妥結

低額回答に積る怒り

春闘にひき続いて闘ってきた炭労の期末手当闘争は、去る二十二日、十万八千五百円という資本回答をもって妥結、その日計画されていたストライキを中止した。同月二日、十五万円という要求を提出して以来二十日ぶり。

こんどの妥結額は、要求額にはかなり遠いとはいえ、前年同期の八万三千七百円、前期の九万六千円に比べればかなり増額したことになる。これはもちろん、ひどい低賃金生活に苦しむ炭鉱労働者の期末手当に対する要求の強さを反映したものに相違ない。

だが野村証券労組が獲得した四十五万三千円を筆頭に、十五万円から二十五万円ほどが中心とされる世間水準に比べれば雲泥の差でせめて要求額ぐらいの期末手当は勝ちとるべきだったと、どの職場もどの家庭も、またまたやり場なきくやしさをかみしめている。



児童対策へ、事前のうち合せ

始まった〝児童対策〟

参加学生30人、子供255人

今年三回めを迎えた〝夏季児童対策〟は、去る二十八日からスタートした。

夏季児童対策には例年の通り、社会主義協会の並々ならぬ協力により結集された学生の皆さんがかけつけてくれ、尊い奉仕精神をもって教育者の任務をひき受けている。学生の皆さんのいつもながらの真剣さには、台所を一手にひき受けて、「少しでも栄養の多いものを……」とがんばっている三池主婦会の各役員も、頭をさげている。

今年実施している地域は勝立(二カ所)、宮原(二カ所)、四山、原万田(二カ所)、万田(二カ所)、緑ケ丘地区(二カ所)、同五地区、臼井、新港(二カ所)野添(二カ所)、それに大和団地の合計十八カ所。小中学生合わせて二百五十五人。

教育に当たってくれる学生の皆さんは三十人前後。前期と後期に分かれ、三日に担当者が入れかわる。

何の報酬を求めることもせず、このような組合活動に参加することによって、ひたすら三池との深い連帯を結ぶことだけを願ってかけつけてくれた学生の皆さんたち。三池労組と三池主婦会のその全組織をもって、今年の対策がせめて例年を上回る成果をもって終わるよう、吸くつつんで行きたいものである。

なお、全日程の終了はきたる十日。子どもたちもがんばれ。

日本の核武装許すな

大地評、原水禁運動へ

被爆二十六周年　世界大会近づく

〝被爆二十六周年原水爆禁止世界大会〟は、沖縄の核付返還の陰謀などにも見られるように、佐藤自民党政府の手でつくり出されて行く戦争危機が、いっそう深刻な不安をかき立てている事態の中で開催されようとしている。このとき大牟田地評は原水禁大牟田市協議会と手を取り合って、「わが国を原爆の加害者にするな」「日本の核武装許すな」と、今年もまた原水禁運動に立ちあがった。

具体的計画

大地評は加盟会労組に呼びかけて、すでに〝被爆二十六周年原水禁世界大会〟への参加をめざし、次のような具体的計画をすすめている。

(1)原水禁・被爆者救援募金
(2)平和行進
コース　大牟田～柳河
とき　七月三十一日
人員　九十三人(三池労組からは七人参加)
(3)広島大会参加
(4)長崎大会参加
人員　五十人(三池労組からは五人参加)

さらに世界大会の日程は、国際会議=八月二～四日(東京)、広島大会=同五～六日(広島)、長崎大会=八～九日(長崎)。

原水協の訴え

なお大牟田原水協は広くビラを配って、市民に次のように訴えた。

「原爆は生きている。いまなお私たちの体内でもえつづけている。火災予防(原水爆禁止、核戦争阻止)も大切であるが、それよりも私たちの体内にもえつづけている火(放射能害)を消してほしい。(一九七〇年八月大会総括会議における市内居住一被爆者の発言から)

原爆被害者は、大牟田市だけでも二百名を超えます。大半の人が体が悪く、生活も苦しいのです。

大牟田被爆者の会結成以来、十名近い人が、原爆症によって尊い命を奪われ、最近原爆二世のことがクローズアップされ、被爆者を苦しめています。

政府は特別措置法制定以来、何ら対策は講ぜず、一層アメリカのベトナム侵略戦争に加担し、自衛隊基地を強化し、沖縄の核つき返還に示されたように、一路核武装への道をばく進しています。

私たちは、断じて許すことができません。日本の核武装を阻止し、沖縄の無条件全面返還、原爆者の援護を強めなければなりません」